

# アラスカ事情

## 1. 州の成立の経緯

(1) 1784年にロシアはコディアック島に拠点を築き、1799年にはアラスカをロシア領として宣言した。当時のアラスカでの主要産業は毛皮の交易で、この毛皮の交易の利益を独占することがロシアの主眼であったが、その後乱獲により毛皮の交易は衰退した。

米国は1867年に、このロシア領のアラスカをロシアから買収した。買収当時はアラスカの買収はあまり評価されなかったが、その後、金を含む天然資源が発見され、またアラスカの地政学上の利点が見直され、アラスカの重要性が認識された。アラスカは1912年5月11日に準州になり、その後石油が発見されたことなどから、1959年1月3日には準州から昇格され、米国の49番目の州になった。

このような経緯から、アラスカ州には、インディアンやエスキモーといった先住民族やロシアの統治の時代の影響がまだ残っている。

(2) アラスカは、イヌイト語の「広大な土地や半島」(Alakshak)に由来するといわれている。

(3) 州都は、南東部にあるジュノー (Juneau) であるが、人口の規模は州内で第3位である。

## 2. 人口 (2010年4月)

アラスカ 710,231人 (2000年より13.3%増)

全米 308,745,538人 (2000年より0.7%増)

全米人口に占める割合 0.23%

1平方kmに占める人口 0.48人

(1平方マイルに占める人口 1.2人 (全米ベースでは87.4人))

白人 66.7% (72.4%)

先住民族 14.8% (0.9%)

アジア系 05.4% (0.8%)

黒人 03.3% (12.6%) (注) カッコ内は全米ベース

2010年

2000年

アンカレッジ 291,826人 260,283人

フェアバンクス 31,535人 30,226人

ジュノー 31,275人 30,711人

シトカ	8, 881人	8, 835人
ケチカン	8, 050人	N.A.

### 3. 地理

(1) アラスカは、北米大陸の中で、カナダとの国境から北西の先端までを占めており、東はカナダと、また西はベーリング海峡を挟んでロシアと国境を接している。南と西は太平洋に、また北は北極海に面している。アラスカ州の3分の1は北極圏にある。

(2) アラスカ州の面積は、2010年の国勢調査によれば、57万6百平方マイル(147万8千平方キロメートル)と各州の中で最も大きく、米国の総面積の16%に及び、その広さはテキサス州の2倍強、また日本の4倍弱である。

(3) アラスカ州政府によれば、アラスカは、南東部アラスカ、中南部アラスカ、西南部アラスカ、内陸部アラスカ、最北部アラスカ、アリューシャン列島の6つの地区に区分されているが、また、州政府内ではアラスカを18の地区に区分する方法なども採用されている。

(4) アラスカ州には北米大陸で最高峰のマッキンリー山(6,194メートル、アラスカでは「デナリ」と呼ばれることが多い)があり、標高が上位16位までの高山は全てアラスカ州にある。また、アラスカ州には、米国で3番目に長いユーコン川が流れている。この川は、源流をカナダのブリッティッシュ・コロンビア州に発しベーリング海まで東から西へアラスカ州を横断している。

(5) ベーリング海には「ベーリング海峡」があるが、この海峡はシベリアとアラスカ州の間の海峡のことで、1741年にオランダ人のベーリングがシベリアからアラスカに渡り探検をおこなったことに因み名付けられたといわれている。

### 4. 気候

アラスカ州の天候は、次の通り、各地方毎に特色がある。

(1) 南東部アラスカ(中心都市は州都のジュノー)

特色 : アラスカ州では最も温暖で、太平洋沿岸を暖流が流れているため雨量が多く、海洋性気候に属す。

気温 : 夏期は摂氏6.7度~18.3度。

冬期は摂氏-3.9度~+1.7度。

雨量 : 年間平均降雨量は233.7cm(9.2インチ)。

降雪量 : 256.5cm(10.1インチ)。

(2) 中南部アラスカ(中心都市は最大の人口規模を誇るアンカレッジ)

特色 : 南側では太平洋沿岸で暖流が流れており、北側ではアラスカ山脈が北風を防ぐので、気候は比較的温暖で、乾燥しておりさわやか。

気温 : 夏期は摂氏10度~21度。

冬期は摂氏-14.4度~-6.7度。

雨量 : 年間平均降雨量は40.4cm(1.59インチ)。

降雪量：175.3cm（69インチ）。降雪期は10月～4月。

(3) 内陸部アラスカ（中心都市は第2の商業都市であるフェアバンクス）

特色：気候は、夏と冬では大きく変化する。

気温：夏期は摂氏10度～22.2度（過去に最高33.9度の記録がある）。

特色：気候は、夏と冬では大きく変化する。

冬期は摂氏-30度～-18.9度（過去に最低61度の記録がある）。

雨量：年間平均降雨量は63.5cm（25.9インチ）。

降雪量：172.2cm（67.8インチ）。降雪期は10月～4月。

夜間：5月10日～8月2日は、日照時間が21時間以上の白夜。

11月18日～1月24日は、日照時間が4時間以下の極夜。

(4) 最北部アラスカ（中心都市はバロー）

特色：北極性気候で雨量は少ない。6月中旬から1月までの間は、海は凍結しない。

気温：夏期は平均で摂氏4.4度。

冬期は気温が低く、摂氏46.6度まで下がることもある。

雨量：年間平均降雨量は12.7cm（5インチ）。

降雪量：50.8cm（20インチ）。

夜間：5月10日～8月2日は、日照時間が21時間以上の白夜。

11月18日～1月24日は、日照時間が4時間以下の極夜。

(5) 西南部アラスカ（中心都市はコディアック）

特色：著しい海洋性気候で雲や霧がかかることが多い。温暖で海が凍結することはほとんどない。

気温：夏期は摂氏3.9度～24.4度。

冬期は摂氏-10度～+7.8度。

雨量：年間平均降雨量は170.1cm（67インチ）。

降雪量：198.1cm（78インチ）。

(6) アリューシャン列島（中心都市はダッチハーバーがあるウナラスカ）

特色：特に冬期は曇りの日が多く、商業フライトがキャンセルになることが多い。

気温：夏期は摂氏6.1度～11.7度。

冬期は摂氏-3.9度～+1.7度。

雨量：年間平均降雨量は147.3cm（58インチ）。

## 5. 政治

(1) 連邦議員

(ア) 上院議員

リサ・マーカウスキー上院議員（共和党）

マーク・ベギッチ上院議員（民主党）

(イ) 下院議員

ドン・ヤング下院議員（共和党）

(2) 州知事

ショーン・パーネル（共和党）

(3) 州議会

上院 20 議席（共和党 13, 民主党 7）

下院 40 議席（共和党 25、民主党 15）

## 6. 軍事

アラスカ州には、主要な基地として、次の基地が置かれている。

(1) アンカレジ

エルメンドルフ空軍基地及びフォートリチャードソン陸軍基地(両基地は 2011 年に統合)

(2) フェアバンクス

アイルソン空軍基地及びフォートウェインライト陸軍基地

(3) デルタ・ジャンクション

フォート・グリーリー基地（地上配備型迎撃ミサイル基地）。迎撃ミサイル（GBI）を 26 基配備。

## 7. GDP

(1) 州政府発表データ

(ア) GDP 構成

2011年11月に州政府が発表したデータに基づく、2010年のアラスカ州のGDPは491.2億ドルである。分野別に見ると、石油・ガスのシェアが目立って大きく25%を占めている。次に続く分野は政府関係機関で19%を占めている。その中でも、軍の駐留が2002年から2009年の間に増加したため、軍関係のシェアが文官のシェアより50%多くなっている。次の分野は運輸関係で、9%のシェアを占めている（全米平均は3%）。これは、北端の大油田地域のノーススロープからアラスカ湾に面するバルディーズ（最北の不凍港）まで敷設されているアラスカ縦断石油パイプライン（800マイル）を利用した原油の輸送関連のGDPが含まれるためである。このことから、アラスカ縦断石油パイプラインはアラスカ州の経済に大きく貢献していることが分かる。

(イ) 1人当たりGDP

アラスカ州の1人当たりのGDP（2010年）は63,424ドルで、全米第1位である。これは、州の人口規模に比し石油及び鉱物などの分野での生産性が高いためである。全米レベルでは、石油・ガス分野のGDPのシェアは2%以下であるが、アラスカ州ではそ

のシェアは25%にも及んでいる。

#### (ウ) 特徴

石油・ガスの価格は変動しやすく、その変動の影響を大きく受けてアラスカ州のGDPは変動しているが、過去のデータから、アラスカ州ではGDPの変動は州の経済、特に雇用や所得にあまり影響を及ぼしていないとされている。因みに、2009年に石油価格が高騰したことからアラスカ州のGDPは9%伸びたが、雇用と所得は23年ぶりに下降した。

#### (2) 連邦政府発表データ

連邦政府が発表したデータに基づく、2010年のアラスカ州のGDPは435.9億ドル（前年比△1.0%減）、また2011年は447.0（暫定値、+2.5%増、増加率ベースで全米5位）となっている。

## 8. 産業

アラスカ州の主な産業は、石油・ガス産業、鉱物・石炭産業、水産業、観光業、林業、国際航空貨物である。

#### (1) 石油・ガス産業

アラスカ州は、テキサス州（全米1位）及びノース・ダコタ（全米2位）に次ぐ原油の生産量を誇っている。原油関連の収入は、州政府歳入の約90%を占めるため、石油産業はアラスカ州にとり極めて重要である。主な原油の生産地は北端の大油田地域（ノース・スロープと呼ばれる）とクックインレット湾にある油田地域である。原油は、北端のノーススロープからアラスカ湾のバルディーズまでアラスカ縦断石油パイプラインにより輸送され、ワシントン州やカルフォルニア州の石油精製所で精製されている（州内でも若干ながら精製される）。天然ガスは、主に、クックインレット湾で生産されている。

ノーススロープでの原油の生産は、ピーク時の200万バレル/日から近頃では55万バレル/日まで減じている。

近年、ボーフォート海やチュクチ海で、シェル等の民間企業によるオフショア油田開発の動きが見られるが、未だ採油の段階には至っていない。

#### (2) 鉱物・石炭産業

アラスカ州では、金、銀、銅、亜鉛、鉛、石炭などの生産が盛んで、アラスカ州の鉱山は世界でも大きな生産量を誇っている。GDPに占める鉱業のシェアはそれほど大きいわけではないが、鉱物の探査、開発、採掘の総生産高は、経済面で大きな役割を果たしている。

#### (3) 水産業

水産業分野の就労者数は州の就労人口（民間）の5分の1を占めていることから窺える通り、水産業もアラスカ州の重要な産業の一つになっている。アラスカ州の水産資源は豊富で多種にわたっており、また魚類の養殖が州法により禁止されていることが、大きな特

色である。種類は、サーモン、カニ、エビ、ニシン（数の子）に始まり、スケソウダラ、オヒョウ、カレイ、アカウオ、ギンダラ、マダラなどまで広範囲に及ぶ。

アラスカ州では日系企業が加工工場を開設しており、特にアリューシャン列島にあるダッチハーバーは、マルハニチロや日本水産系の日系企業による水産加工業が盛んである。

#### （４）観光業

アラスカ州は大自然の魅力に溢れている。マッキンリー山や大河ユーコン川をはじめとする山河、10万以上の氷河、海洋動物、陸生動・植物、オーロラなど観光資源には枚挙がなく、米国本土のみならず諸外国からも観光旅行客が数多く訪れている。

州政府の調査によれば、2011年の夏期にアラスカ州を訪れた観光旅行客総数は百5千万人であった。これに加え別途、冬期に25万4千人の観光旅行客がアラスカを訪れている。2011年の「夏期」の観光旅行客の国別内訳等は次の通り。

北米（含カナダ）	1,402,700人（90%）
外国人旅行者	154,100人（10%）
欧州諸国	64,000人
イギリス	33,000
ドイツ語圏	20,000
その他	11,000
オーストラリア・NZ	42,000
アジア諸国	18,000
日本	6,000
韓国	2,000
メキシコ	8,000
その他	22,000

#### 【オーロラ】

アラスカ州はオーロラでも有名である。オーロラは、太陽風が大気圏に突入するとき起きる発光現象で、地上100m～300mぐらいの空中に出現する。オーロラには、緑色にはじまり、ピンク、紫、オレンジ、赤、深紅と様々な色があり、またカーテン状、フリル状、弓状、帯状などの様々な形状がある。

北極と南極地域には磁極を中心にオーロラ・ベルトが地球を一周する状態で広がっている。このオーロラ・ベルトの真下にある内陸部アラスカを中心都市のフェアバンクス、カナダのイエローナイフ、ノルウェーのラップランド地方などでは北半球で最も明るいオーロラが見える。フェアバンクスにはアラスカ州立大学は地球物理学研究所が所在し、同研究所のオーロラ研究は世界でも有名である。なお、オーロラがよく見えるのは、主に冬期（正確には、日が沈まない夏期や天候が崩れにくい季節以外の時期）である。

#### （５）国際航空貨物

アンカレジ国際空港は、北半球の主要都市から3～8.5時間の飛行距離に位置していることから、国際貨物航空のハブ港として発展してきた。2010年の年間貨物取扱量を比較すると、アンカレジ国際空港は、香港、メンフィス、上海、インチョンに次いで世界第5位となっている。

東アジアから米国本土に向かう貨物航空機は、できる限り多くの貨物を積むこともあり、アンカレジ国際空港に必ず立ち寄り給油する必要がある。また、東アジアから中南米に向かう航空路線上にもある。これらの観点から、アンカレジ国際空港は日本にとり重要な空港である。

## 9. 貿易（輸出）

### （1）輸出高

2011年に輸出高は前年から26.1%増え、過去最大の52億ドルに達した。分野別では、水産物が第1位で47%（25億ドル、前年比35.1%増）を占めた。第2位以下は、鉱産物34%（25億ドル、前年比31.7%増）、エネルギー7%（3.88億ドル）、貴金属5%（2.66億ドル、前年比24.7%増）、木材2%（1.19億ドル、前年比1.9%増）の順となっている。

### （2）主な輸出相手国

主な輸出相手国は、第1位は中国（14.39億ドル）、第2位は日本（10.84億ドル）、第3位は韓国（6.44億ドル）、第4位はカナダ（5.83億ドル）、第5位はドイツ（2.6億ドル）である。

## 10. 日本との関係

日本はアラスカにとり距離的に近く、これまで良き経済関係を享受してきたことなどから、日本に対し親近感を持つ州民が多いと言われている。アンカレジには、日本語エマージェンション教育（日本語による授業を行う教育）を行う小学校、中学校、高等学校があり、日本語や日本文化に親しんでいる学生が多い。

### （1）日系企業

水産関係の日系企業が多く、マルハニチロ社や日本水産社がダッチハーバー等に工場を構えている。エネルギー関係（LNG）では、資源エネルギー（REI）社が進出しており、鉱物関係では、住友金属鉱山がポゴ金山を運営している。国際貨物の分野では、日本貨物航空（NCA）社がアンカレジに事務所を開設している。観光関係でも複数の日系の会社が活動している。

### （2）対日輸出

2011年のアラスカ州の対日輸出は10.84億ドルで、前年比で10.9%減少した。2011年の対日輸出の主な内訳は次の通り。

シーフード（5.89億ドル）（日本は中国に次いで第2位）

鉱石 (2.48億ドル) (日本は第4位)  
石油・ガス (2.03億ドル) (日本は第1位)  
木材 (0.28億ドル) (日本は中国に次いで第2位)

伝統的に、日本はアラスカ州の最大の輸出相手国であったが、2011年に中国が最大の輸出国に取って代わった。1969年以来、アラスカ州のキーナイのLNG施設(コノコ・フィリップス社運営)から日本に向けLNG(液化天然ガス)が輸出されていたが、このLNGの対日輸出は、クックインレット湾での天然ガスの生産量が減少したため2012年に中止された。

### (3) 日本人観光旅行者

日本からの観光旅行者は、夏期はマッキンリー山の観光などのため、冬期はオーロラを觀賞するため、アラスカ州を訪れる。

アラスカ州政府の調べによると、夏期の日本人旅行者数は上記8.(4)の通り6,000人であり、冬期もアラスカ州を訪れる日本人観光旅行者が多い(主にフェアバンクス、チャーター・フライトで訪れるのが主流)。

### (4) 各都市の在留邦人数

2011年10月1日現在で各都市に在留する邦人数(届け出ベース)は、次の通り。

総人数	486人(うち永住者は384人)
アンカレジ	232人
フェアバンクス	87人
コディアック	26人
ウナラスカ(ダッチハーバー)	23人
イーグルリバー	16人
ジュノー	12人
ワシラ	8人

### (5) 日本との姉妹都市関係

次の通り、9件の姉妹都市関係が構築されている。

秋田県秋田市ーキーナイ半島郡  
北海道帯広市ースワード市  
北海道紋別市ーフェアバンクス・ノーススター郡  
北海道根室市ーシトカ市  
北海道千歳市ーアンカレジ市  
北海道天塩市ーホーマー市  
北海道佐呂間町ーパーマー市

岐阜県下呂市（旧金山町）－ケチカン市  
岐阜県関市板取－ノースポール市  
新潟県妙高高原－ガードウッド（地区）